

＜学校名＞ 白岡市立^{せいが}菁莪中学校
＜所在地＞ 白岡市下野田927
＜電話番号＞ 0480-92-1706
＜本事例の特徴＞

白岡市で勤務しているALTが4人いる。4人とも1学期間常駐している。それぞれ出身の国が違うので、滞在の間は、英語の時間を中心に自分の国の生活や習慣、文化を実際に話してもらうことができる。また、常駐しているので、普段から異文化に触れる機会が多い。

＜具体的な取組や成果＞

○英語の時間での活用

それぞれの国のALTが自己紹介をするときに、国の様子や、有名なものなどについて話をしてもらったりクイズをしてもらったりした。

2年生の学習では、教科書の主人公がイギリスに行く設定になっている。ALTがスコットランド出身なので、レストランでのスキットでは、スコットランド料理を紹介してもらった。またアメリカ英語、イギリス英語、スコットランド英語の話や民族衣装のキルトも紹介してもらった。

普段の授業では、英語で会話する中で、日本のことや外国のことをさりげなく知る機会が多い。例えば、会話の中でアニメや音楽の話になり、日本ではやっているものを紹介したり、外国ではやっている日本のアニメの話や音楽を知ったりすることができる。

このように、様々な国のALTがいることで、それぞれの国のことや自分の国のこと、それから国を超えて学べたり感じたりできることが当たり前になっている。これからもお互いを分かろうとすること、いろいろな考え方や習慣があつて当たり前だということを感じられるように授業でのALTとのやりとりを大切にしたい。

○「留学生に学ぶ」の取組

近くの大学に留学生として来ている学生を招き、話を聞く機会を設けた。

生徒たちは、事前にその国の事を調べたり、質問したいことを考えたり、日本の文化を紹介したりして、時間を過ごした。今年度は、サウジアラビアとミャンマーからの留学生を迎え、話をしてもらう予定である。自分たちでは気がつかない日本の事や自分たちがまだ知らない世界の事を知る時間になり、興味関心が高まることを期待している。

